

	一般的名称	報告の概要
329	ホリナートカルシウム	進行性胃癌患者141例を対象とした高用量フルオロウラシルレジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸併用レジメン、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンを比較するランダム化Phase II 試験において、高用量フルオロウラシル/葉酸/シスプラチン併用レジメンにおいて、1例が胃内容物の誤嚥による両側性肺炎により死亡した。
330	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に直接tPAを還流したところ、tPAが持続的に細胞外に存在することにより、ニューロンの損傷及び血液脳関門の破壊を起こすことが示唆された。
331	ゲムツマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	再発急性骨髄性白血病患者58例を対象としたレトロスペクティブ研究において、治療関連死が報告された。
332	ベバシズマブ(遺伝子組換え)	転移性結腸直腸癌、乳癌および非小細胞肺癌患者1715例を対象とした5つの無作為化コントロール試験の併合解析により、動脈血栓塞栓症のリスク因子として、動脈血栓塞栓症の既往を持つ患者、65歳以上の患者およびベバシズマブの使用があげられた。
333	吉草酸デキサメタゾン	出生直後に全身ステロイド剤長期投与を受けた早産児を平均8歳まで経過観察したところ、神経運動機能および認知機能が低下することが示唆された。
334	カンデサルタンシレキセチル	種々の心血管治療薬と自殺のリスク上昇と関連についてコホート内症例対照研究を行ったところアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の使用により、5例の死亡例が見られた。
335	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	Burn Centerの医療記録およびコンピューターデータベースをレトロスペクティブに調査したところ、組織学的に中毒性表皮壊死症の診断を受けた32例のうち、10例が癌を有しており、うち1例がピペラシリンの投与を受けていた。
336	ジノプロストンベータデクス	プロスタグランジンE2陰錠とオキシトシンの併用により、過強陣痛、羊水混濁、子宮出血、発熱が見られた。
337	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の使用により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
338	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	ラット正常皮質に直接tPAを還流したところ、tPAが持続的に細胞外に存在することにより、ニューロンの損傷及び血液脳関門の破壊を起こすことが示唆された。
339	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	局所脳虚血誘発マウスを用いたin vivo研究において、rt-PA誘発性虚血性脳損傷の悪化にポリADP-リボースの活性化増大が関与することが示唆された。
340	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の使用により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
341	ケトプロフェン	非ステロイド性抗炎症剤の使用により、消化管イベントの発症リスクが高まることが示唆された。
342	ピペラシリンナトリウム	Burn Centerの医療記録およびコンピューターデータベースをレトロスペクティブに調査したところ、組織学的に中毒性表皮壊死症の診断を受けた32例のうち、10例が癌を有しており、うち1例がピペラシリンの投与を受けていた。
343	塩酸イリノテカン	フルオロウラシルおよびイリノテカンアジュバント化学療法レジメンを受けているハイリスク、ステージⅢの結腸癌患者400例を対象としたプロスペクティブ無作為化試験において、UGT1A1-3156G)A遺伝子突然変異型を有する患者では重度な血液学的毒性あるいは好中球減少の発現が有意に高いことが示唆された。